



1

Message

北九州市は、かつて製鉄をはじめとするものづくりの力で、日本の高度経済成長を支えた都市です。一方で、その急速な発展ゆえに、環境、経済、社会のさまざまな課題にも、日本の都市として最も早く直面してきました。しかし、私たちはそのために、市民、企業、行政が力を合わせ、何度も困難を乗り越えてきました。北九州市は、何度も立ち上がる、つまり再生的(Regenerative)な力を有しています。

今、私たちはまた新たな開けに向かっています。次の時代を支える産業を、どう育てるか。超高齢社会の中で、持続可能で誰も取り残さない都市をどう築くか。激化する気候リスクに、どう立ち向かうか。

こうした挑戦の中で、2025年は大きな転換点となりました。企業誘致の投資額は過去最高を記録し、日本最大級の洋上風力発電事業などの大規模プロジェクトも進んでいます。そして、北九州市の人口は50年ぶりに「社会増」に転換しました。とびや、若者や女性の転入がその原動力です。

これは、北九州市が再び価値を取り戻し、「選ばれた都市」へと生まれ変わっている証です。

私たちの挑戦は、世界にも一層広がっています。パリでのOECDの会合、ボンでの国際会議、台湾・高雄都市やインド・チナンゴ州との連携、カンボジアでの長年の水道技術協力、いづれも、北九州市が国際的なサステナビリティの一翼を担っていることを示しています。

私はサステナビリティを「トンド」と考えています。過去から現在へ、そして未来へ、国際社会を繋ぎ、つなぐ会場の「トンド」を、北九州市が今、確かな手にしています。そして、それを責任を持って次世代へ渡していくことが、私たちの使命です。

この思いを込めて、私たちはネクストホライズン・サステナブルシティというビジョンを描きました。その中心となるのは、

- ・豊饒なネットワーク (Mandala-like network) : 多様な主体が有機的につながる都市
- ・利他的都市 (Altruistic City) : 互いを思いやる力をもつ都市
- ・再生都市 (Regenerative City) : 継続的に自らを再生する都市
- ・変革主体 (Transformative Agent) : 世界の変化を自らつくり出す都市

世界の変化を自ら作り出す都市。気候変動や生物多様性など地球全体に危機が迫る中、これらの中で「都市」が果たせる役割が、北九州市にこそ、その先頭に立つべきです。なぜなら、

- ・子どもや未来のために市民が行動した公害克服の歴史
- ・環境国際協力プロジェクトを過去15年間で300件以上も実施した歴史
- ・カボディヤ首都アンソンの水道を築きあげた「アンソンの奇跡」といった、利他的で再生的な歴史がのちを彩っているからです。

そして、これらは、シューメイ・バイ(教員が提唱する都市変革の理念)と深く連動しており、私たちの取組に学術的な後押しをいただいていることに大きな感謝を抱いています。

計、この都市を今後も体現するため、3つの中核プロジェクトを進めています。

- ・都市共創イノベーションを牽引する Transformation (Retablo)
- ・北九州市をサステナビリティの国際的なハブと高める Attraction (Destination)
- ・市民が豊かに楽しく参加できる文化を育む Passion (Matsuri)

これらは、北九州市が次の地平へ向かうための原動力となるものです。

そして、これらも、北九州市の最大の強みは、市民一人ひとりの情熱です。サステナビリティは、義務ではなく、「やむを得ない」「前触れなし」という気持ちから生まれます。その気持ちを、私は何よりも大切にしています。

世界は今、かつてないほど複雑で困難な課題に直面しています。だがここ北九州市は、その経験と行動力を世界と分かち合い、とち未来を創り拓いていきます。

「北九州市なら、必ず、できる。」
皆さんとともに、この「トンド」を未来へ。
次の地平、「ネクストホライズン」へ向かって、一歩一歩、挑戦を続けよう。

武内 和久
北九州市長

2

Message

今日、人類はこれまでになく深刻な地球規模の課題に直面しています。気候変動は加速し、生物多様性は通常の数十倍の速度で失われ、地球の多くのフロンティア・バウンダリーがすでに超過されつつあります。同時に、世界人口の半数以上がすでに都市で生活しており、2050年には人類の3分の2が都市に居住するに予想されています。さらに、都市は世界の温暖化ペースのCO2排出量の70%以上を占めています。こうした意味において、都市はむしろ気候変動の「元凶」と見なされます。

しかし、私たちは、都市こそが最も革新的な解決策が生まれる場であると考えています。再生可能エネルギーの導入、次世代モビリティ、グリーンインフラなどがその代表例です。言い換えれば、都市は問題の源であるだけでなく、解決策の宝庫でもあるのです。

私たちは今、都市が大胆かつ協調的な行動を取らなければならない歴史的転換点に立っています。先進的な都市が単独で行動するだけでは不十分です。都市がネットワークを形成し、互いが支え、共に高みを目指すべき、地球全体の軌道を変えることができています。少数のフロンティア都市であっても、その行動が波及効果や連鎖反応を生み、持続可能性に向けた新たな規範とポジティブなモデルを生み出します。その意味で、私たちは都市を、地球規模の持続可能性を推進する変革主体 (transformative agents) として再定義し直さなければなりません。

都市が変革主体として果たすべき役割は三つあります。

- 第一に、各都市が自らを変革しなければなりません。従来型の発展経路から脱却し、望ましい持続可能な未来に向けて加速することです。
- 第二に、都市は自らを成長させるだけでは不十分であり、他の都市の変革を支援する必要があるのです。先進都市は「リーダー」であるだけでなく、「支援者」にもなるべきです。
- 第三に、都市は強固なネットワークを築き、共に行動しなければなりません。気候変動リスクや食料、エネルギーや食料のサプライチェーンの脆弱性を確保すると、都市間の連携はそれ以上に重要で、連携し行動する都市は、単独で努力する都市よりもはるかに強く、レジリエントになります。ネクストホライズン・サステナブルシティは、この概念を都市ビジョンとして明示的に取り入れ、実践する世界初の取り組みです。

3

Team Support Messages

北九州市は、まさにその利他的精神を体現してきました。自らの環境課題を克服した後、国内外の都市に積極的に知見を共有し、環境改善を支援してきています。よく知られているように、北九州市は「公害の街」から「環境モデル都市」へと劇的な転換を遂げました。同市はこれまで15年間で300件以上の都市間連携プロジェクトを主導・支援してきました。2011年には、OECDのアジア初の「グリーン成長モデル都市」に選定されました。北九州市は、環境協力を牽引する利他的な姿勢によって、国際的に高い評価を受けています。

この実績を基盤として、北九州市は現在、「ネクストホライズン・サステナブルシティ」を通して次の段階へ進み、具体的なプロジェクトによって、世界的に先導する変革主体となることを目指しています。

最後に強調したいのは、都市は問題の集合体ではなく、解決策の豊かな源泉だということです。都市こそが、私たちの変革主体にならなければなりません。そして北九州市は、その最前線に立っています。この取組に積極的なご賛同をいただき、大きな名義に載っています。今後、北九州市の皆さんと共に歩んでいくことを楽しみにしています。

シュウメイ・バイ (Xuemei Bai)
オーストラリア国立大学特別教授、ARC ロードフellow、東京大学客員教授、公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 評議員、研究分野は、急速な都市化に関する学際的政策、および都市システムの持続可能性、IPCC気候変動報告書に関する特別報告書の調整主宰者 (Coordinating Lead Author)、2018年「水循環賞」(Voho Environment Prize) 受賞、2019年および2022年に「世界で最も影響力のある気候変動政策分野の100人」に選出、2021年「グローバル経済賞 (Global Economy Prize)」受賞。

高村ゆかり
東京大学未来ビジョン研究センター教授

中井徳太郎
日本製鉄顧問
元環境事務次官

田瀬和夫
SDGパートナーズ 代表取締役CEO
公益団 人道国際慈善財団 (OCHA) 人間の安全保障部部長

フランチェスコ・ズーロ
ミラノ工科大学デザイン部長

これまでの都市文明の繁栄は、地球温暖化による災害、生物多様性減少や生態系の破壊を招き、人類社会の持続を脅かしています。(GHG) 排出量の約70%が都市に由来し、都市は、適切な対策を講じ、脱炭素で持続可能な社会へ移行できれば、世界の資源効率性を高め、GHG排出量を大幅に削減する機会を生み出すことができます。都市は、また、知識と技術を集約し、持続可能な社会への移行を実現するソリューションとイノベーションを生み出すプラットフォームを持っています。北九州市が、これまで経験分野で培ってきた経験・実績を活かし、持続可能な社会への変革に向けた交流、協力、連携の小いなどによって、世界で最も持続可能な社会に変革する能力 (transformative agent) となることを期待しています。

これまでの都市文明の繁栄は、地球温暖化による災害、生物多様性減少や生態系の破壊を招き、人類社会の持続を脅かしています。人類の大半が都市に暮らす時代において、都市文明は地球温暖化のリスクに直面できるが、地球への人類存続の鍵となる。古くから交流の拠点であり、明治以降は近代交通の中心として高度な成長を支え、支え続けてきた。環境問題を克服し、日本を代表するエコタウンとなった北九州こそ、地球温暖化との新たな都市文明のイノベーションを育むべき場所です。変革可能なネットワーク、利他的な都市、再生的な都市、世界の変革主体としての都市、とのコトワザを探索し、三千年の未来に達して持続可能な都市のあり方を北九州から発信してまいります。

サステナビリティやワイディングの本質は、進んだ人が力を合わせてきた歴史的な価値を生み出して、「フロンティア」にあふれています。その意味で、今北九州市が持つ利他的な概念をまちづくりの中心に据え、人々の暮らしと自然との共存の両方に力強い方向性を示すとされていることを高く評価し、願っています。世界は激変の中心にあり、一旦サステナビリティも逆流が吹いているようにも思いますが、私はこのお取組が2030年を過ぎるに超えて次世代の青い未来に向けて、アジアで世界初となるような大きな役割を担うことを期待しています。

デビッドは人の生活をより良くするために存在し、私たちを動かす根源的な力である「欲望」に形を与えます。しかし、欲望は無制限に満たすことは、環境を損ない、深刻な不平等を生み出し、望まぬ結果を生み出さず、欲望は不可欠である一方、その過剰は、私たちが生きることを可能にしている基礎そのものを脅かします。ここで将来の世代が与えるべき「責任」です。すべてを「ケア」(CARE) としての環境を通じて導くことです。環境への配慮、他者への配慮、そして「人間的な存在」への配慮が、プロジェクトの核となるべきです。利他的な都市へ変化した北九州市は、ケア、そしてそれに発展したプロジェクトが、いかにしてコミュニティを支える持続可能な原動力となるかを示しています。

4

「サステナビリティ」とは何でしょうか？

それは、**現在と未来、どちらも諦めない**ということです。
 それは、**今日と明日、どちらのためにも挑戦し続ける**ということです。
 それは、**今を生きる私たち、未来を生きる人々、すべての一人ひとりのためのもの**です。

北九州市のサステナビリティへの歩みは、市民からの力強い願いから始まりました。

高度経済成長期、北九州市は深刻な大気汚染に苦しんでいましたが、市民の「青空がほしい」という声を原動力に、公害を克服し世界に誇る環境都市へと生まれ変わりました。

最初に声を上げたのは、地域の女性団体の母親たちでした。そのたった一つの訴えが、市民・企業・行政を動かし、やがて世界の注目を集める大胆な挑戦へと発展していきました。

都市、国家、そして世界。地球環境、地域社会、産業経済。現在と未来。すべてはつながっています。

北九州市は、このつながりの力を絶えず活かしてきた、特別な都市です。そして今、このつながりを大切にしながら、未来に向けた新たな挑戦を続けています。

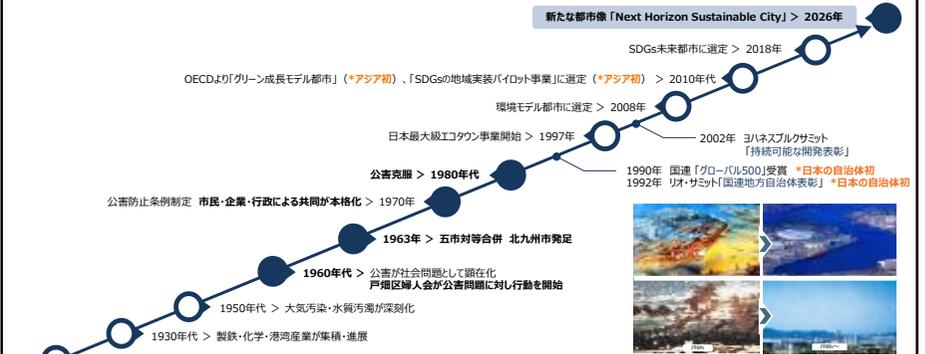
世界はこれから、いっそう困難な時代へ向かおうとしています。だからこそ、北九州市のように、市民の願いから挑戦を始める都市が、世界に必要とされています。

人の想いと行動が、都市を動かし、世界を動かす都市

この思いを胸に、北九州市は Next Horizon Sustainable City へ歩みを進めています。

「サステナブルシティ北九州市の歩み」

北九州市は、いつの時代も最先端を走り続け、何度も課題に直面しては、そのたびに、市民とともに自らを変革し続けました。



「次なる地平線」とは何でしょうか？

世界を先導するサステナブルシティである北九州市は、脱炭素、資源循環、生物多様性、高齢化、孤独、雇用といった複雑な課題に継続的に取り組み、その経験を世界に共有し、地球規模の変革に不可欠な都市 (transformative agent) となることを期待されています。

北九州市は、以下の4つの概念に従って、サステナブルシティのネクストホライズン「次なる地平線」へと歩みを進めています。



Mandala-Like Network (曼荼羅的なネットワーク)

“曼荼羅的なネットワークは、多様性と連帯から生まれます”

北九州市は、古くから日本列島における人・物・文化の重要な結節点でした。関門海峡は、本州と九州を結ぶ生命線として機能してきました。明治以降、門司港は海外貿易の玄関口となり、鉄道路網が市内に広がりました。外の世界からもたらされる価値や技術が都市に新たな活力を与え、その活力がやがて再び外へと返されていく——北九州には、内と外の自然循環が深く根づいています。

1963年、門司、小倉、若松、八幡、戸畑の5市は対等な立場で合併し、北九州市が誕生しました。門司と若松は世界への港を開き、八幡は鉄によって近代日本を支え、小倉は行政と商業の中心となり、戸畑は文教のまちとして市民の日常を支えてきました。

こうした異なる歴史をもつ都市が、未来のために手を取り合い、一つの市となったことが、多様性と連帯の体現でした。

外の世界への貢献は、分断ではなく、内なる力を育みます。多様性と連帯は、権威ではなく、レジリエントな未来をつくり出します。

この、人、命、時空、すべてが、内や外など関係なく繋がっている、曼荼羅のようなネットワーク (Mandala-like Network) は、北九州市の中に息づいています。

Altruistic City (利他的な都市)

“限界の向こう側へ導く利他的な力を持つ都市です”

北九州市は、かつて日本の鉄の90%を生産し、国の近代化を支えた都市です。

発展の裏で大気汚染や水質汚濁が深刻化したとき、子どものため、未来のため、市民が立ち上がり、企業、行政が一体となり青い空、きれいな海を取り戻しました。

その過程で培われた環境技術や水処理技術を、北九州市はアジア諸国に惜しみなく共有しました。過去15年間で、300件を超える環境分野の国際協力プロジェクトを実施した都市は他にどれほどあるでしょうか？カンボジアの首都プノンペンへの水道技術協力は、「プノンペンの奇跡」として有名です。

また、市内には、ロボティクス、衛生機器、自動車製造など、世界の人々の生活を支えるグローバル企業が多数立地しています。こうして、北九州市やその市民は、昔も、日々、世界のウェルビーイングに貢献しています。

そして何よりも、北九州市の市民には、困っている人を見ると放っておけない、思いやりの精神と、強い行動力があります。

人は他者のために尽くそうとすると、通常の力を超えた力を発揮することがあります。おそらく、都市も同じなのかもしれません。

北九州市には、利他的豊かな歴史があります。



NEXT HORIZON SUSTAINABLE CITY | CITY OF KITAKYUSHU 9

Regenerative City (再生的な都市)

“再生の力が自然とコミュニティをよみがえらせる都市です”

北九州市は、美しい海と空を取り戻し、市中心部に豊かな動植物を呼び戻し、安全・安心な都市環境をつくり上げてきた都市です。

北九州市には、「再生」という深く根づいた伝統があります。このようにして北九州市は、利他と再生が響き合う都市となりました。

私たちがのまちは、日本で最も多くの再生可能エネルギーを生み、最も多くの資源をリサイクルする企業が立地しています。

かつては鉄のまちとして世界を支え、そして環境都市として再生を遂げた北九州市は、いま、新たな未来の環をつくろうとしています。

私たちは、この利他と再生の環を世界へ広げたいと願っています。

そして何よりも、伝統を越えて、都市再生や地域活性化への挑戦と希望の声が、福岡太鼓の響きとともに立ち上がっています。

人は危機を機会と捉えたとき、これまで以上の情熱を発揮するものです。おそらく、都市も同じなのでしょう。



NEXT HORIZON SUSTAINABLE CITY | CITY OF KITAKYUSHU 10

City as a Transformative Agent (世界の変革主体としての都市)

“変革の主体としての都市が、私たちの地球の「次の地平線」を形づくります”

地球規模の課題に対処し、持続可能性を実現するためには抜本的な変革が求められています。しかし現在の対応では断片的で不十分であり、気候変動は急速に加速し、生物は自然に滅する速さよりも、10倍から100倍も速いスピードで失われています。

このような状況の下、都市が、気候変動の被害が少なく安心して暮らせる未来、生物多様性の保全、そして地球の自然のバランスを保つべくには、次の3つの役割を果たすことが求められています。

都市の行動は、個人や組織の行動を単に足し合わせたものではありません。都市は一つの仕組みとして働き、変化を生み出し、それを社会に根づかせます。また都市は、国境を越えて社会の変化を広げていく力を持っています。

社会の変革は、意欲と力を持つ小さな中心から始まります。都市はそれを支え、広げていく存在として、変革を進める主体 (transformative agent) であるべきです。

これこそが、「Next Horizon Sustainable City」です。



NEXT HORIZON SUSTAINABLE CITY | CITY OF KITAKYUSHU 11

Next Horizon どうすれば「次なる地平線」に行けるのでしょうか？

北九州市は、変革主体 (transformative agent) として、ネクストホライズン・サステナブルシティに向けた三つのプロジェクトを実施します。



Retalabo
リタラボ



Matsuri Project
まつりプロジェクト



Destination Project
目的のプロジェクト

Retalabo (リタラボ)

- 利他的で、再生的で、かつ変革主体 (transformative agent) としての実践ラボを設立します
- 市民と産業界・行政・学術界との協働を通じて、複雑かつ困難な課題 (wicked problem) を解決するためのプロセスを構築します
- 戦略的デザインによって世界を先導する取り組みを追求し、その経験を世界へ共有します

Destination Project (目的地プロジェクト)

- GDS-Index (Global Destination Sustainability Index) など活用しサステナブルデザインに関心をもつ人々が「一生に一度は訪れたい」「何度も繰り返し訪れたい」と思う「目的地」となることを目指します

Matsuri Project (まつりプロジェクト)

- 多様な分野を横断して取り組むことで市民の日常生活に根ざしたサステナビリティを活性化し、より持続可能な都市に向けた市民の熱意と機運を喚起します

NEXT HORIZON SUSTAINABLE CITY | CITY OF KITAKYUSHU 12

Retalabo (リタラボ) — Altruistic, Regenerative and transformative agent labo

サステナビリティの実現のためには、分野にとらわれないイノベーションが必要です。戦略的デザイン (Strategic Design) のアプローチの下、複雑かつ困難な課題 (wicked problem) に横断的に取り組むことで、利他的で、再生的で、かつ変革主体 (transformative agent) としての実践の「場」としてのラボを構築します。

ここを起点に、市民の意欲や熱量を駆動力として、産官学民のコラボレーションにより、都市変革プロジェクトを生み出し続けます。これは、政府が推進するGX、地方創生SDGs、地域脱炭素、地域循環共生圏、統合的シナジーアプローチ、国民の行動変容施策等の実践の場としても貢献します。

世界的な専門家 / 有識者

- 国内外のネットワーク
- プロジェクトごとのアドバイザー
- サポートデザイナー

Retalabo

多様な領域

- 気候変動
- 資源循環
- 生物多様性
- 高齢化
- 少子化
- 地域コミュニティ
- 包摂性
- 防災
- 健康
- 介護
- 産業, etc.
- 地域成長
- インフラ
- 雇用
- 経済
- 産業, etc.

市民

- 市民ニーズを探索すると同時に、市民と一緒に解決します
- 団体
- 企業
- 金融機関
- 研究教育機関
- 国内外の他都市

13

Destination Project (目的地プロジェクト)

ネクストホライズン・サステナブルシティとして、北九州市は世界最先端の取組に挑戦し続けます。この経験を世界に共有することで、世界全体のサステナビリティが加速し、それが回りまわって北九州市民のウェルビーイングへと繋がります。

さらに、世界からの注目は、北九州市の推進力をさらに高める好循環につながります。

GDS-Index (Global Destination Sustainability Index) などの仕組みを活用し、サステナビリティに関心をもつ世界中の人々 (研究者、投資家、インベーター) が、「人生で一度は訪れたい」「何度も繰り返し訪れたい」と思う「目的地」となることを目指します。

14

Matsuri Project (まつりプロジェクト)

北九州市は、まつりのまちです。まつりは、人々の情熱により、数百年も続く、まさにサステナビリティを体現するものです。

そして、その市民の情熱は、都市の未来を変える力を持っています。人々が日常生活の中でサステナビリティを感じ、意欲を高め、現在と未来のために行動を起こす力が、ネクストホライズン・サステナブルシティを進めるエンジンそのものです。

私たちは、食、スポーツ、エンターテインメント、アート、デザイン、文化、コミュニティといった様々な要素を横断しながら、市民の皆さんとともに、今と未来を諦めず、挑戦し続ける駆動力となる熱量を育てています。

この熱量が、Retalaboを通じた変革を加速させ、目的地プロジェクトを加速させ、再びこのまつりプロジェクトで熱量へと変換させる、好循環の起点となります。

15

付録 北九州市・ディープサステナビリティへの旅路

「利他」と「再生」が響き合う、ディープ・サステナビリティの都市、北九州市。私たちは、この北九州市から、皆さまでともに「響がり」と「福徳」の輪を広げ、真に持続可能な世界への道を歩んでいきたいと心から願っています。ぜひ、北九州市の現場に触れ、未来への一歩をご一緒にください。ここでは皆様を、北九州市のディープ・サステナビリティに出会う旅へとご案内します。

ディープ・サステナビリティのルーツ

日本の高度経済成長をけん引した日本統一の基業都市、北九州。しかし、1990年代、この地は「世界で最も汚染と公害が浮きあがった都市の一つ」と呼ばれていました。立ち上げた危機の中、民間に声を上げたのは地産婦人会の母親たちでした。子どもたちのために立ち上がった彼女たちの行動が、市民、企業、行政を動かして、危機は変革へと変わりました。ここにディープ・サステナビリティの原点があります。

人間を超える利他

かつて汚れた川も、地域の人々が立ち上がり、ホタルが舞い、アユが泳いで清流を取り戻しました。地元企業も、生き物への愛情を込めて、100万本の福徳に取組みました。このまちでは、「人間を超える」利他、そして豊かな自然を取り戻してきた再生の現場を見ることが出来ます。

内に留まらない利他の精神

公害克服の経験は世界へ伝わり、今や世界の環境改善に役立っています。これまで160以上の国と地域で1万人を超える研修者を受け入れ、また、最先端のテクノロジーを開発し、アジアの国々の環境技術の進化を促してきました。ローカルに根差した経験が、グローバルを変える。まさに利他の精神を体現する北九州市の姿がここにあります。

QRコード: <https://www.youtube.com/watch?v=R91o60132Gw>

NEXT HORIZON SUSTAINABLE CITY | CITY OF KITAKYUSHU 16

16

